

平成26年度病害虫発生予報第1号

平成26年 4月 4日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	全域	前年の穂いもち発生量はやや少ない	－
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	やや多い	全域	前年の発生量はやや多い	＋
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない(平年並)	±
	赤かび病	平年並 (やや遅い)	全域	4月の降水量は平年並 ムギの生育はやや遅い	±

・留意事項

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう(例:60℃、10分)。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下だと効果が劣るので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないように管理しましょう。

イネもみ枯細菌病(苗腐敗症)は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

ムギの赤かび病は、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	越年罹病葉率は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
ナシ	赤星病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並	± ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	灰星病(花腐れ)	平年並	全域	前年の果実被害発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	前年秋の発生量はやや少ない	—
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
果樹共通	カメムシ類	多い	全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫量は多い	+

・防除対策

[ナシ・黒星病]

りん片発病芽や新梢基部病斑は見つけ次第除去し、アンビルフロアブル、ジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「平成26年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

・留意事項

落葉果樹の生育は地域や品種によりばらつきも見られますが、4月3日現在長久手市では、モモ(白鳳)で平年より2日、ナシ(新高)で0~1日開花が早い状況です。生育ステージに合わせた適期防除を心がけましょう。

ブドウ黒とう病は、春季に降水量が多いと発生量が多くなります。昨年の発生量が多かったほ場では、特に注意しましょう。

フェロモントラップの誘殺状況から、ナシヒメシンクイ越冬世代の成虫発生時期は平年並と思われるのですが、安城市(ナシ園)では平年より早く誘殺量が増えてきました。成虫はこれからモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況などを参考に、適期を逃さないように防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
タマネギ	べと病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
トマト (施設)	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並か多い	－ ±～－
	ハモグリバエ類	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない	－
ナス (施設)	灰色かび病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並か多い	± ±～－
	すすかび病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は平年並か多い	＋ ±～－
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は平年並か多い	＋ ±～－
	うどんこ病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	＋
	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並か多い	－ ±～－
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	＋
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並か多い	± ±～－
	うどんこ病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない	－
	ミカンキイロ アザミウマ	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	＋

・防除対策

〔タマネギ・べと病〕

気温が高く、降雨が続くと発生量が増加します。アミスター20フロアブル、レーバスフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス(施設)・すすかび病〕

施設内が多湿になると発病が助長されます。換気に努めるとともに、発部葉は早めに除去しましょう。プロポーズ顆粒水和剤、シグナムWDGなどで防除しましょう。

〔キュウリ(施設)・べと病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意し、発病葉は早めに除去しましょう。ベトファイター顆粒水和剤、ランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔キュウリ(施設)・うどんこ病〕

病気が拡がると防除しにくくなります。発病前にダコニール1000やベルコートフロアブルなどを散布しましょう。発病が見られたら、速やかにパンチョTF顆粒水和剤、ブリザ

ード水和剤などで防除しましょう。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

平成26年2月4日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

〔イチゴ（施設）・ミカンキイロアザミウマ〕

ディアナSC、モスピラン水溶剤、マッチ乳剤などで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮に入れて農薬を選定してください。

・留意事項

野菜（露地）

東三河地域の5、6月収穫予定のキャベツでは、多くのほ場でコナガの発生を確認しています。詳細は本日発表の「コナガ情報（キャベツ）」を参照してください。

野菜（施設）

気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが増殖しやすくなります。タバココナジラミの防除を徹底し、トマト黄化葉巻病の発生を防ぎましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してタバココナジラミを死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平年並 やや多い やや少ない 多い 少ない	平年値を中心にして40%の度数に入る幅 平年並の外側20%の度数に入る幅 同上 上記三者の外側10%の度数に入る幅 同上
発生時期	平年並 やや早い やや遅い 早い 遅い	平年値を中心にして前後2日以内 平年値より3～5日早い 平年値より3～5日遅い 平年値より6日以上早い 平年値より6日以上遅い

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台4月3日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：40% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%